

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3591500131		
法人名	エポックワン有限会社		
事業所名	グループホームこもれび城ヶ丘		
所在地	周南市城ヶ丘4丁目3536-1		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町受理日	令和元年5月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年11月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自治会に加入し、地域の行事にも同敷地内の事業所と協力し、参加をしている。看護師を配置し、健康管理、医療機関とも連携が取れるようにしている。排泄面を重視し、全介助になってもトイレで排泄ができるようにしている。気候の良いとき、天気の良いときは、散歩をしたり、外の空気を感ずることができるようにしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事故防止の取り組みは、未然に防ぐための工夫を多くしておられます。ヒヤリハットの報告数を増やす為に「よかったね報告書」と、ネーミングを変更されたり、事故防止委員によって「安全な介護ポジティブリスクマネジメント」を参考にした食事や排泄、入浴、行方不明等について、常に点検をされています。感染症対策では予防に重点を置かれ、予防方法や対応、健康管理等、職員も含めた取り組みをしておられます。職員は常に利用者へ寄り添うことを大切にされ、利用者一人ひとりの気持ちや状態に合った支援に努めておられます。食事では美味しく食べてもらえるように、食品交換や形態、食器の工夫をされ、利用者は食卓の準備やおやつづくりなど、できることを職員と一緒にされています。排泄では状態をふまえた排泄用品の工夫や羞恥心等に配慮した対応に心がけられ、入浴では状態や希望に添った入浴方法等、全職員で話し合っって支援に取り組まれるとともに、常に「不適切なケアになっていないか」を話し合われて、利用者一人ひとりがその人らしい暮らしができるように支援に努めておられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット内に掲示し、共有を図っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。「利用者に寄り添うことを大切にしているか」を管理者と職員はミーティングやカンファレンスの中で話し合って確認し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に加入し、小学生の登校時には月1回程度、職員が立哨を行っている。地域一斉清掃の時に参加したり、地域行事がある時にも一部参加している。	自治体に加入し、職員は毎月1回、小学生登校時の立哨をし、内2回は利用者も参加している。年2回、利用者と職員と一緒に公園の清掃作業に参加している。利用者は地域で開催の芋煮会やどんど焼き、近隣の大学祭に職員と一緒に参加している他、ボランティア(傾聴ボランティア、カラオケ、楽器演奏、歌等)で来訪の人と交流している。散歩時には併設施設の利用者と挨拶を交わし、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練、誘導の仕方など一緒に考え、取り組むようにしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各ユニットごとに話し合って記入したものを管理者がまとめている。評価項目を理解し、実践していくことが、利用者のサービスにつながることは理解され始めている。	管理者は、職員に評価の意義を説明し、ユニット毎に自己評価をするための用紙を全職員に配布して記入してもらい、ユニットリーダーがユニット毎に記録したものを、まとめている。職員は自己評価を日々のケアの振り返りと捉えている。前回の外部評価を受けて目標達成計画を立て、運営推進会議の議題の工夫や家族の参加者を増やしている他、職員が応急手当ができるよう救急救命のためのAEDの使用方法の研修など、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、併設事業所と合同の会議を行っている。サービスの状況や事故報告、改善策等を報告。地域の方からは、地域の困難事例を聞くこともある。	会議は新たに傾聴ボランティアの参加を得て、年6回、併設施設(小規模多機能型居宅介護事業所)と合同で開催している。利用者の状況や活動報告、事故・ヒヤリハット報告、自己評価や外部評価報告等の報告の後、話し合いをしている。家族の参加が得られるように毎回、呼びかけを工夫し、今年から参加を得ている。インフルエンザなどの感染症対策や高齢者虐待についての現状と取り組みについて意見をもとに話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議には、毎回出席していただき、事業所の実情を報告している。	市担当者とは、運営推進会議時の他、電話で情報交換や運営上の疑義について相談を行い、助言を得ているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換や困難事例について相談を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、外出したい利用者には、概ね職員が付き添ったり、見守りを行い拘束をしないケアに取り組んでいる。月1回のミーティング時に身体拘束についての勉強を行った。	職員はマニュアルを基に月1回の内部研修で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで外出したい利用者とは職員と一緒に出かけているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては気づいた時には管理者やユニットリーダーが指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、外部研修の報告という形で学ぶ機会を設け、ミーティング時にも虐待及び不適切ケアの勉強をした。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に成年後見制度や公正証書について学ぶ機会を設けた。公正証書については、既に手続きを済ませている利用者へ、今後の心配をされている時に、説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際に十分説明し、納得いただけるようにしている。加算等の変更時には、文書にて理解して頂けるようにしてる。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に対しては重要事項に定め、契約時に説明をしている。家族には面会時や更新時に要望を聞くようにし、利用者については外部の相談員が毎月一度来苑し、要望を聞いている。	苦情相談の受付窓口や外部相談機関を明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時や運営推進会議時、年1回の家族交流会時、電話等で意見や要望を聞いている。2カ月に1回、介護相談員の来訪があり、利用者の要望を聞いている。管理者は介護相談員から報告を受けている。相談、苦情は苦情受付簿や連絡帳に記録し、職員間で共有している。毎月1回、利用者の暮らしの状況を記録した事業所だよりを家族に配布して意見や要望が言い易いように工夫している。利用者の重度化に関する相談等、個別ケアに関する相談や要望が多く、その都度対応し、介護計画に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の課題に関しては月1回のリーダー会議、ミーティング、ケアカンファレンスにおいて反映させるようにしている。	管理者は月1回のミーティング時やユニットリーダー会議、ユニット毎のカンファレンス、年2回の行事委員会や事故防止委員会活動等で職員の意見や提案を聞いている。勤務の変更や行事の運営、居室環境の支援、入浴時のシャワーチェアの購入等、職員の意見を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	昇給に関しては、勤務年数の他に、資格、考課に応じた個別昇給がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>未経験の者に対しては、初任者研修を働きながら学ぶことができるような仕組みを会社が設けている。個人の外部研修の他に法人内で業者によるオムツの研修や拠点内でのAEDの講習、月1では事業者内で学ぶ機会を設けている。</p>	<p>外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。認知症ケア研修等8回の参加があり、受講後は研修報告書を提出の後、月1回のミーティング時に伝達してもらい、資料はいつでも閲覧できるようにして全職員で共有している。法人研修は、業者によるオムツの研修を実施し、拠点施設合同で消防署の協力を得て、救急処置やAEDの使用法の研修を実施している。内部研修は年間計画を立て管理者と看護師が指導者となって認知症の分類と症状や排泄支援、感染症、熱中症、医療行為、移乗、不適切なケア、車椅子介助、杖歩行等について実施している。新人研修は初任者研修を受講後、日々の業務の中で、管理者や先輩職員から介護の知識や介護技術を学んでいる。</p>	
15		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内外の研修で他事業所の職員と交流し、法人内では行事や他事業所との合同研修にて交流している。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に居宅のケアマネやサービス事業者から情報をもらい、本人を把握するようにしている。本人や家族からもコミュニケーションを取りながら要望を聞くようにしている。</p>		
17		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご家族から要望を聞くようにしている。家族と事業所が互いに利用者を支えることができるような関係作りをしている。</p>		
18		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族での対応が困難と考えられることについては、施設が代わって行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの有する能力に応じて見極めながら、苑内での役割を考えて対応している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回苑便りを送り、日ごろの様子を伝えている。病院受診や行事などできる範囲で協力して頂いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親せきの他に近所の人や友人の面会もある。家族が外出、美容院、墓参りなどに連れていくこともある。利用者によっては本人所有の携帯電話があり、使用されている。	家族の面会や親戚の人、近所の人、友人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や馴染みの商店での買物、法事への出席、墓参、外出、外食、一時帰宅、外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士がくつろげるよう席の配置に配慮している。くつろぎコーナーにはソファを設け、相性の良いもの同士が隣同士で座りながら、くつろげるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後もフォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が可能な方は、日常生活の会話の中で思いがくみとれるよう日々コミュニケーションを取るようになっている。	入居時には事業所独自のアセスメントシートを活用して、生活歴や本人、家族の希望などを把握している。職員は、入浴時や食事時等、日々の関わりの中で利用者の傍らに寄り添い、利用者の発した言葉や表情、状態を「介護記録」に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報を得て職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に入居時に家族より生活歴を聞き、入居後からも本人とのコミュニケーションの中で又は面会に来られた親せき、友人から情報を得るなど今までの暮らし方を把握するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なるべく自由に過ごして頂いている。毎日バイタルを測定し、コミュニケーションからも状態を把握するようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当スタッフがあり、担当者が中心となってモニタリングをしている。月一回カンファレンスがあり、小さなことはチームにて日々意見を出し合っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の思いや意向、主治医、看護師の意見を参考にして話し合い、職員全員で介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎、見直しをしている他、利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他に連絡帳もあり、日々の気づきなどが共有できるようにしている。記録の中に気持ちが表れていると思われる個所にはアンダーラインを引いてわかるようにするなど工夫をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族での対応が難しいと思われることは、代わって施設が対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、地域の方の出席が毎回ある。災害時の協力体制が築けるよう今後話を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所のかかりつけ医はあるが、本人やご家族の希望を大切にし、家族と協力して受診ができるようにしている。</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関からの往診は月1回あり、希望のかかりつけ医への定期受診は月1回から3ヶ月に1回、他科受診も含めて家族の協力を得て受診支援をしている。受診結果は「医療・看護記録」に記録して職員間で共有し、家族には電話で報告している。事業所の看護師が利用者の健康管理や受診支援を行い、緊急時には医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤の看護師を配置し、気づきを伝えるようにしている。必要時には看護師の判断で適切な受診ができるようにしている。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、情報提供書を作成し、退院時には情報をもらっている。施設で受け入れができる状態になった時にはなるべく早く受け入れるようにしている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に「重度化した場合の指針」に基づいて家族に説明をしている。実際に重度化してきた場合は、家族の意向を踏まえ方針を決めている。</p>	<p>「重度化した場合の指針」に基づいて、契約時に事業所でできる対応について家族に説明をしている。実際に重度化した場合は早い段階から本人、家族の意向をふまえた上で主治医や看護師、職員と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止委員会を設置し、月1回話し合いをしている。各ユニットの事故防止委員が事故を未然に防ぐため、チェックをしている。応急手当や急変時の対応もミーティング等で看護師主導で学ぶことができるようにしている。	事例が生じた場合は「事故報告書」「よかったね報告書」に原因と経過、対応、今後の対策を記録し、閲覧している。月1回ある事故防止委員会で、再度話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に努めている。事故を未然に防ぐため、ユニットの事故防止委員が「安全な介護ポジティブリスクマネジメントチェック」を参考にして、食事、排泄、入浴、行方不明について点検し、ヒヤリハット報告数を増やすためのネーミングの変更等の取り組みをしている。消防署の協力を得て、救急救命法とAEDの使用方法についての研修や看護師による感染症（インフルエンザ、ノロウイルス）の予防と処置、心肺停時の対応、職員の健康管理と事故防止等について学習しているが、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回同敷地内の事業所と合同で避難訓練を実施している。地域の方にも参加していただけるよう話を進めている。	年2回（1回は消防署の協力があり、1回は防災機器会社の協力を得ている）、拠点施設合同で夜間の火災を想定した通報訓練、避難訓練、消火器の使い方、避難経路の確認等を利用者や運営推進会議メンバー、6人の地域住民の参加を得て実施している。地域の人には安全な救出や見守りの協力を得ている。地域の参加者からは事業所内の設計確認ができてよかったという意見を得ている。災害時には拠点施設の連絡網を通して自治会長に連絡するようになっており、地域との連絡体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけないような声かけをすることを理想としているが、十分ではないため、ミーティング時に不適切ケアとして学ぶ機会を設けた。	職員は内部研修（不適切なケア）の中で学び、管理者による排泄時の言葉かけや声のトーン、前から話しかけることなどの指導を通して、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。個人情報適切に管理し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物を選んだりするときに「～しますか？」と声をかけるなど、できるだけ本人の希望に沿えるようにしている。自分の思いを表出するのが困難な場合には、本人の立場になって考えるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはあるが、多くの利用者は、無理強いせず、自分が過ごしたいように生活してもらっている。一日穏やかに過ごすためにはどう接し、何を提供するかを大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ、服を自分で選んで頂いたり、気に入った服を着ていただいている。選べない人は、季節に合った服を着て頂くようにしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士がたてた献立の元、バランスがとれた食事を提供している。気候の良い季節には、苑庭で食事をしたり、外食も時に行う。一部の利用者は、おやつ作りや片付けに参加したり、お盆拭きに参加している。	食事は三食とも法人の栄養バランスのとれた配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。利用者の好みや状態に合わせて、食品交換や形態(ミキサー、刻みなど)、食器の工夫をして食べやすい食事を提供している。利用者はテーブルを拭いたり、トレイ拭き、お茶汲み、下膳、食器を洗う、おやつづくり(混ぜる、ひっくり返す、盛り付け)など、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話をしながら一緒に食事をしている。おやつづくり(ホットケーキ、饅頭、パン、お汁粉など)や戸外食(外にテーブルを出してお茶を飲む、バーベキュー)、年1回の外食、ケーキのつく誕生日食、季節料理(おせち料理、節句の寿司、ソーメン流し、年越しそば)、家族の協力を得て外食等、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼、嚥下の状態に応じて形態を変えている。食事量を増やすため、好きな物を提供したり(お茶が好きではない人には好みのジュースを定期的に購入)栄養を補うために、利用者によっては、経口栄養も取り入れている。食事量や水分量をチェックし、一定量が確保できるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせた口腔ケア物品を用意し、残渣物をなるべく除去するようにしている。毎食後、口腔ケアを実施、就寝前は義歯洗浄を行っている。うがいができない入居者には、緑茶を提供している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を主とし、排泄が自立していない人には、排泄チェック表にての間隔をみながら誘導をしている。排泄用品についても本人に合わせたものを提供し、時間帯によって使い分けをするようにしている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握して、習慣を活かして、羞恥心や不安に配慮し、利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。利用者個々への対応方法はカンファレンスで話し合い支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひどい便秘の方は専門の病院にかかっている。薬以外では、予防にヨーグルトやを取り入れている利用者がいる。便秘ぎみの方に水分補給時、きなこ牛乳を提供することもある。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間はある程度決まっているが、入浴日は決めておらず、入りたい日は希望に沿っている。入浴をしたいとの希望の方が少ないため、多くは、スタッフの方で決めている。入浴を強く嫌がる利用者には、時間、人、日にもちを変え対応している。	入浴は毎日、13時30分から16時まで可能で入浴時間や順番、湯加減、好みの石鹸、季節の柚子湯等、本人の希望に添ってゆつたりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間や職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や手浴、足浴、シャワー浴、部分浴、機械浴など個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、天気の良い日は散歩や日光浴を取り入れている。夜間不眠の方や早朝覚醒される方がおられるため、日中のレク活動と休息の時間を作り対応している。数人は、パジャマに着替えることで、気持ちを切り替えてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、ケースファイルの中に入れ、いつでも見ることができるようにし、健康管理表にて服薬できたかどうか、確認できるようにしている。薬の変更時は、記録し、介護スタッフに伝えている。服薬の為にゼリーも使用している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけその利用者にあつた役割を提供している。できない時は、スタッフと一緒にいるなど利用者の有する力が発揮できるようにしている。主に洗濯物をたたむ、干す、お盆ふき、おやつ作り、塗り絵や編み物、計算問題などがある。	テレビやDVDの視聴、新聞、雑誌、本を読む、写真集を見る、写経、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、習字、編物、歌を歌う、カラオケ、壁画作り、かるた、トランプ、脳トレ(ことわざ、しりとり、漢字、計算、四文字熟語)、ラジオ体操、リハビリ体操、テレビ体操、口腔体操、掃除(ホールを掃く、手すりを拭く、テーブルを拭く)、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物を収納する、カーテンの開閉、花を生ける、花瓶の水を換える、プランターに花の苗植え、プランターに水やり、草取り、ゴミ袋づくり、雑巾を縫う、お茶汲み、盛り付け、食器を洗う、おやつづくり、季節行事(どんど焼き、豆まき、運動会、納涼祭、敬老会、誕生日会、雛祭り、母の日、父の日、七夕、バーベキュー、お茶会、ソーメン流し、クリスマス)、ボランティアの来訪、外食等、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事に参加することもある。家族の支援で理容院に行ったり、墓参りに行く利用者もいる。	敷地内や周辺の散歩、外気浴、日光浴、外庭で喫茶、近くの園芸店に買物、季節の花見(桜、紫陽花、コスモス)、ドライブ(米泉湖、スポーツ公園、下松市内)、初詣、どんど焼き、芋煮会、外でのバーベキュー、外食の他、家族の協力を得て馴染みの商店での買物や馴染みの美容院の利用、法事、墓参、外食、一時帰宅など、利用者一人ひとりの希望に添って戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者のお金は管理しないようにしているが、所持したい利用者には希望通りにしている。苑庭の自販機にてジュースを購入する利用者もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者があり、使い方がわからないときは、スタッフが支援し、使えるようにしている。電話がかかけたい、手紙を出したいとの希望があるときは、希望に沿えるようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた壁面を飾っている。食卓用の椅子の他にソファを設け、くつろげるようにしている。時には庭に咲いている花を飾ることもある。	リビングの大きな窓からは山や丘の樹木、花壇の花が見え、天気の良い日には外にテーブルや椅子を出して、外気浴や日光浴、喫茶をしているなど、季節を感じるができるように工夫している。室内にはテーブルや椅子、テレビの前のソファ等をゆったりと配置し、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。壁面には季節の飾りや活動写真を掲示している。温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファを置き、外を見ながらひとりで過ごしたり、仲の良い利用者と一緒に過ごすことができるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきて頂けるよう家族に伝えている。利用者によっては、ラジオや写真、アルバム、本などを持ち込んでいる。	箆箆や整理ダンス、衣装スタンド、衣装掛け、五段ラック、衣装ケース、掛け時計、置時計、アルバム、ぬり絵の色鉛筆、ボード、クッションなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダーや誕生日カードを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設け、移動箇所には障害物を置かないようにしている。ベッドには介助バー、浴室にはグリップやすべり止めなどを使用している。居室には名前、トイレも表示している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームこもれび城ヶ丘

作成日: 令和元年 5月6日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	応急手当や急変時の対応など学ぶ機会を設けているが、すべての職員の実践力は身につけていない。	全職員が、応急手当や初期対応ができるようにする。	内部研修や外部からの講師、外部研修などで多くの職員が取り組めるようにする。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。